

館の運営方針	常に地域の実情や市民生活の変化に即した学習要求や生活課題を的確に捉えながら、新しいまちづくりをめざした事業を進める。これと共に、市民が自主的に「集い」「学び」そして「伝えていく」活動を助成することで、市民の生涯学習と地域社会教育活動の中心施設としての役割を果たすことに務める。
ジャンルの目標	
子育てで孤立化しない、親子の在り方を考える仲間づくり、きっかけづくりをして子どもとともに学ぶための共育の場を提供する。	

☆個別事業評価一覧

No.	事業名	事業の内容
①	おはなし会	臼井公民館図書室の読書活動推進事業。子供たち向けに、すばなしと絵本の読み聞かせによるおはなし会で本の世界に親しむとともに、パネルシアター、テーブル人形劇を組み合わせた立体構成のおはなし会を行います。
②	2・3歳児親子遊び	絵本の読み聞かせや手遊びで、温もりある親子関係を育みます。
③	家庭教育共通講座	子供がより良く成長するために、家庭の働きやあり方などを学習します。
④		
⑤		
⑥		
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		

☆ジャンル総合評価

個別事業における、ねらい・運営方法・学習テーマ・対象者・講師・資料・広報等、事業全般		
企画	企画段階での課題と解決策	A A: 各個別事業の想定課題は正しかった。 B: 各個別事業の想定課題はまあ正しかった。 C: 個別事業の想定課題が違っていたところがある。 i: 途中で変更した。 ii: そのまま進めた。
実施	実施しての課題と解決策	B A: 各個別事業の想定課題の解決は進んだ。 B: 各個別事業の想定課題は解決はまあ進んだ。 C: 各個別事業の想定課題とは別の課題が出た。 i: 別の方向に進めた。 ii: そのまま進めた。
点検	点検しての課題と展望策	子育て中の男性や従来の子育て世代以外の祖父母世代の参加が増えているが、更に参加しやすい内容と日程・広報についての検討が必要。
改善	次年度への課題と展望策	B A: 事業拡大。 B: 現状規模での継続。 C: 事業縮小。 D: 目的達成により終了。 E: 統合・改善・その他 ()

総合評価	
B	<p>事業規模</p> <p>A: 適切で成果が得られている。 B: 課題あり、成果が得られている。 C: 課題あり、成果があまりない。 D: 成果が得られていない。 E: 現段階では判断できない。</p>
	<p>成果</p> <p>公民館では、長年幼児教育に取り組んでおり、その結果は確実に実りのあるものとなっています。</p>
	<p>課題</p> <p>まだまだ子育てが一過性の課題であり、親育ちと一緒に理解されていけませんので、育児は育自であることを大切に普及・高揚していく必要があります。</p>

☆公民館運営審議委員意見

	委員①	意見なし
総合評価	A	

委員②		意見なし
総合評価	A	

委員③		かつて、家庭教育に関する調査をしたときに、佐倉市の親同士の交流が比較的少ないという結果が出た。そのような意味で、大変意義のある分野だと思う。料理づくりとかをきっかけに親のコミュニケーションを図るという取り組みは過去にも成果をあげているし、今日でも価値があると思う。今後に向けて、各公民館事業の情報の共有化を図り、よりよいものを目指すことが大切と思われる。
総合評価	A	

委員④		核家族の多い今、家で「ひきこもり育児」がないよう是非窓口を大きく開けてほしいとこのまま継続を望みます。
総合評価	A	

委員⑤		家庭教育事業については、とくに父親の参加が少ない。外国の家庭教育には保護者も関心が高いので、開催日が保護者(父親・仕事を持つ母親)が参加しやすい曜日であれば、参加が増えるのではないかとと思われる。
総合評価	A	

委員⑥		家庭教育、学校教育、社会教育の中で、いま最も手薄になり、教育力の低下が大きな問題となっているのが家庭教育であると言われて久しいところです。特に幼児教育の領域における家庭教育は、公民館自らの課題整理で触れられているように、親子教育であり、言葉どおり育自と育児の両面を持つものです。内容によっては成人教育の側面が強くなることもあると思います。児童虐待の芽を摘めるのは、公民館で行われているような活動ではないかとも思います。幼児教育は子育て支援策でもありますが、公民館だからこそ成し得る役割とは何かを考えると、保育園、幼稚園、図書館や保健センターによる様々な取り組みがある現在、「育自」こそ中心テーマとなるのではないかと思います。それを十分意識、認識して講座が生まれ、実践されていると感じます。また、「育自・育児」の取り組みとして、外国の異文化を知ることによる「気づき」を得るとい、特色ある学習があります。このような事業は、公民館ならではのアプローチであると思います。基本的には、育自を中心として家庭教育に取り組まれています、今後とも視点・支点をそこに置き、取り組まれることを期待しています。必要性、優先性、有効性ともにA評価であり、総合的にもA評価とすべきです。
総合評価	A	

委員⑦		・地域での子育て支援の重要性が求められている今日、ジャンルの目的にもある「子育てで孤独化しない」場の提供はもっと設けられてもいいと思います。評価シートⅡの評価はBでしたが、これからの望ましい親子のあり方のきっかけとなっていると思います。
総合評価	A	

委員⑧		「おはなし会」「2・3歳児親子あそび」は子どものより良い成長のために、親子で一つのストーリーを共に楽しみながら各種の催しを開催している。また、親子で本に親しむことや同世代の交流・仲間づくりに役立つ事業であることから継続を望みます。
総合評価	A	

委員⑨		育児放棄や虐待など、様々な子どもを取り巻く問題の解決のためにも家庭教育の重要性は、はかりしれない。特に地域の目が届きにくい未就園児、又その保護者を対象とした事業を望む。
総合評価	A	

委員⑩		昨今、親子間のコミュニケーションが取れないための悲惨な事故が発生しています。親子間のコミュニケーションの在り方や、同じ子育て世代との仲間作りなど、非常に有意義な企画です。また、絵本や物語の読み聞かせなどで子ども達に、本に親しむ環境づくりを提供されていると思います。
総合評価	A	

委員⑪		子供たちは、まず子ども同士での接触が大事だと思います。それに伴い母親同士も交流を持つことが出来、一挙両得な事業と考えます。講師の確保が大変でしょうが、是非とも続けて欲しい事業だと思います。
総合評価	A	

委員⑫		「生の言葉、共鳴、感動…」。本、お話し、遊びの世界に豊かな人間形成の「宝」が秘められている。毎月第2土曜日に開かれる「おはなし会」は紙芝居、人形劇などを組み合わせ、子どもから大人まで楽しめる趣向を凝らしている。「2、3歳児親子遊び」は受講した子ども、親同士がふれ合い、つながる場ともなっている。スペインの食生活をテーマにした家庭教育講座は国際化時代にふさわしく、様々な国について異なるテーマで取り入れてはどうか。
総合評価	B	

委員⑬		総合評価	B	<p>「おはなし会」「2.3歳児親子あそび」「家庭教育共通講座」の3事業、「おはなし会」「2.3歳児親子あそび」の2事業については年間回数、参加人数ともに多く、順調に実施されているようです。</p> <p>「家庭教育共通講座」は年間1回ですが、参加者は23人と人気もあるようなので、回数を多くしてはと思います。今は親御さんの勉強が大事な時代です。家庭での躾、栄養学から一般教養まで、テーマは探せば色々あると思われれます。</p>

委員⑭		総合評価	B	<p>全体的には主催者が参加者に一方的に提供する形式の事業になっているが、公民館が行う事業とするならば、参加者が加わって自ら何かを発揮する、例えば、体験発表や意見交換、参加者同士が交流する内容など、内容に一工夫が望まれる。</p> <p>事業全体のバランスを考えると、他公民館の事例等を参考にしながら、地域の幅広い小中学生を対象にする事業も、今後は積極的に取り入れて頂きたい。</p>

委員⑮		総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会 図書館事業を地域の実情により行ってる公民館事業である。参加者が数字的には寂しいがこの種の事業は継続することである。 ・2.3歳児親子あそび 親子を超えた世代参加は、情緒教育や子育て世代間のコミュニケーションづくりに役立っている。 ・家庭教育共通講座 難しい題材であるが「スペイン交流・・」との題名で23名の参加があった感じがする。他国について学ぶ機会を設けることに大きな意義がある。